

2019年10月24日

報道機関各位

Press Release

株式会社四国総合研究所
大日本塗料株式会社

共同研究により商品化された『ケルビン α 2.5』が 2019年度 色材協会賞「技術賞」を受賞

(株)四国総合研究所（代表取締役社長 松本真治）と大日本塗料(株)（代表取締役社長 里隆幸）は、これまでステンレス応力腐食割れ対策用塗料など、電力設備の補修用塗料の共同開発に取り組んでまいりました。

こうした取り組みの一環として、大日本塗料(株)が昨年商品化した『剥離抑制型変性エポキシ樹脂塗料（ケルビン α 2.5）』が、我が国の色材（顔料・塗料・印刷インキ・化粧品等）技術の進歩と発展、知識の普及等に多大な貢献があったと高く評価され、本日、一般社団法人色材協会（会長 橋本和明氏）から2019年度色材協会賞（技術賞）を受賞しました。

『剥離抑制型変性エポキシ樹脂塗料』は、高速道路や鉄道の鋼橋、プラント設備など、我が国の各種インフラ設備等の長寿命化に寄与することを目的に、他の大手塗料メーカー2社を含む4社で共同研究を進めてきたものです。

従来の塗料は、塗膜の劣化に伴い補修塗装を繰り返す必要があり、膨大なコストと労力を要していましたが、同塗料は構成要素のひとつである線膨張係数（温度変化に対する物質の寸法安定性）を従来塗料の半分程度まで小さくすることで『塗り重ねる程に剥離リスクが抑制できる』という、これまでの常識を覆す知見を導き出した(株)四国総合研究所の研究成果に基づいて開発され、優れた耐久性を有し、大幅な補修コストを抑制することが可能となりました。

昨年11月に、大日本塗料(株)が『ケルビン α 2.5』として先行販売して以降、業界内で大きな反響を呼んでおり、今後、鋼構造物の長寿命化に貢献していくことが期待されております。

両社といたしましては、今後とも様々な技術や商品開発を通じて、国内の産業や経済の発展に貢献してまいりたいと考えております。

以上

【本件照会先】



確かな未来へ、“わくわく”を形に

四国総合研究所

〒761-0192 高松市屋島西町 2109 番地 8

総務部（担当：山本）

TEL：050-8802-4617（直通）

087-843-8111（代表）

関 連 情 報 等

(参考1)株式会社四国総合研究所

四国電力株式会社の技術研究所を母体として、1987年10月に設立。研究領域は、電力・エネルギー分野を中心に、土木建築・地質、情報・通信、エレクトロニクス、化学・バイオなど多岐にわたっている。

| | |
|-------|--|
| 設 立 | 1987年10月1日（四国電力より分離・独立） |
| 資 本 金 | 1億円 |
| 代 表 者 | 代表取締役社長 松本真治 |
| 従業員数 | 127名（2019年5月1日末現在） |
| 本 社 | 高松市屋島西町2109番地8 |
| U R L | http://www.sskn.co.jp/ |
| 営業種目 | <ul style="list-style-type: none"> ・電気事業に関する調査、研究・開発 ・土木・地質、情報・通信、環境、エネルギー、電気利用、バイオ分野における調査・研究、開発業務の受託およびコンサルティング ・産業財産等の知的財産権に関する調査、管理 ・当社開発商品等の製造・販売、研究設備等の賃貸 など |

(参考2)大日本塗料株式会社

日本電池株式会社の塗料部門から分離・独立して、鉛粉塗料株式会社として1929年7月に設立。その後、1936年5月に現社名 大日本塗料株式会社に改称し、今年で創立90周年を迎える。事業領域は、「国内塗料」「海外塗料」「照明機器」「蛍光色材」「その他」の5つのセグメントで構成され、重防食塗料と建材塗料においては国内トップシェアである。

| | |
|-------|---|
| 設 立 | 1929年7月25日 [日本電池(株) (現(株)ジーエス・ユアサ コーポレーション) より分離・独立] |
| 資 本 金 | 88億円 |
| 代 表 者 | 代表取締役会長 岩浅 壽二郎 代表取締役社長 里 隆幸 |
| 従業員数 | 連結2, 203名、単体690名（2019年3月末現在） |
| 本 社 | 大阪市中央区南船場一丁目18番11号（SRビル長堀） |
| U R L | https://www.dnt.co.jp/ |
| 営業種目 | <ul style="list-style-type: none"> ・塗料・ジェットインクの製造、販売 ・各種塗装機器装置の販売、塗装工事等 |

(参考3)一般社団法人色材協会

一般社団法人色材協会は、色材に関する国内唯一の学術団体であり、1927年1月に「顔料塗料印刷インキ協会」として設立された後、1937年に「色材協会」に改称し、2012年に一般社団法人に改組された。現在、顔料や塗料、印刷インキ、化粧品や各種添加剤、プラスチック、ゴム、繊維、紙、建材、皮革から磁気・光記録、画像形成に至るまで幅広い色材開発・研究を行い、その技術・知識の発展と普及に務めている。

色材協会賞は、色材の研究・技術を奨励する目的で同協会が創設した顕彰制度であり、毎年開催される研究発表会の中で優秀な論文や技術に対して贈られている。

| | |
|---------|---|
| 設 立 | 1927年設立 |
| 会 長 | 橋本 和明 (千葉工業大学 応用科学科 教授) |
| 会 員 数 | 維持会員数160機関、正会員数1,000名 (内訳：企業、大学、公的機関およびその職員等) |
| 所 在 地 | 東京都渋谷区恵比寿3-12-8 東京塗料会館201号 |
| U R L | http://www.shikizai.org/ |
| 営 業 種 目 | <ul style="list-style-type: none">・色材に関する会誌及び図書の編集・刊行並びに配布・色材に関する研究発表会、講演会等の開催・色材に関する研究業績に対する表彰・内外関連機関等との交流及び協力 など |

(参考4)受賞者(共同研究者)一覧

| 氏名 (敬称略) | 所属・役職 | 役割分担 |
|-------------|---------------------------------------|--|
| 清水 悠平 | 大日本塗料(株) 構造物塗料事業部 テクニカルサポートグループ | <ul style="list-style-type: none">・剥離抑制メカニズムの究明・線膨張係数を制御した塗料の開発 |
| 松本 剛司 | 大日本塗料(株) 構造物塗料事業部 テクニカルサポートグループ 課長 | <ul style="list-style-type: none">・剥離抑制メカニズムの究明・線膨張係数を制御した塗料の開発 |
| 宮下 剛 | 大日本塗料(株) 資材本部 購買部長 | <ul style="list-style-type: none">・剥離抑制メカニズムの究明・線膨張係数を制御した塗料の開発 |
| 西森 修次 | (株)四国総合研究所 化学バリエーション技術部 塗料化学グループ 長 | <ul style="list-style-type: none">・剥離抑制メカニズムの究明・αシリーズの新規用途の開発 |
| 大捕 秀基 | (株)四国総合研究所 化学バリエーション技術部 塗料化学グループ | <ul style="list-style-type: none">・剥離抑制メカニズムの究明・αシリーズの新規用途の開発 |
| 坂口 聡彦 | (株)四国総合研究所 化学バリエーション技術部 塗料化学グループ | <ul style="list-style-type: none">・剥離抑制メカニズムの究明・αシリーズの新規用途の開発 |

以 上

▶[剥離抑制型弱溶剤変性エポキシ塗料\(\$\alpha\$ \)シリーズとは](#)

▶[大日本塗料\(株\)「ケルビン \$\alpha\$ 2.5」とは](#)